

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600325		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	長崎県五島市吉久木町907-1		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年度に法人内のGHの理念を「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」に統一して取組をはじめました。本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。法人内では老健・グループホーム・有料老人ホームを運営し広域的な医療・看護・リハビリ・介護の提供に努めています。毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組み、研究発表会も開催され先進的な活動が行われています。また、老健と一部のグループホームでは認知症の維持・改善と予防に科学的に効果のある「くもん学習療法」を取り入れ、利用者のコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善により効果が現れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム福寿園はリビングも広く、中庭やリビングの窓から太陽の光が降り注いでおり、自然豊かな山々を眺めながら、ゆったりとした時間が流れている。毎朝の体操や長い廊下での歩行訓練も続けられ、一緒に食事を作ったり、洗濯物をたたまれる姿も日常となっている。目標とされている“自然との共存”も着実に実践され、職員が畑で土を掘っている姿を見て、ご利用者が「畑を貸して、自分で掘る」と言って下さり、いつもの歩行状態では考えられない姿で畑仕事をすることができた。“畑の活用や周囲の散歩”も増え、ご利用者が畑の野菜を眺めながら収穫時期を覚えて下さる。ご利用者が作られた野菜は新鮮で美味しく、皆さん食欲も旺盛で、元気の源にもなっている。天気の良い日にはリビングの外にテーブルを出し、山を眺めながらのバイキングも楽しませている。ご利用者同士の仲も良く、お互いに支え合う関係もできており、ご利用者の息子さんが“アイアンマラソンに出られる”と言う事で、ご利用者も一緒に応援が行われた。五島の綺麗な海を眺めながらのドライブもご利用者の楽しみとなっており、今後も更に、ご利用者のお力を引き出すため、“作品作り”などにもチャレンジしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体でGHHとしての統一した理念をつくり取り組んでいる。また、朝礼時に唱和し理念を念頭に置いたケアに努めている。	“家庭的な雰囲気”を大切にするために、一緒に食事を作ったり、洗濯物をたたまれている。“自然との共存”も日常となり、ご利用者と一緒に作られた野菜は美味しく、野菜作りは、ご利用者の楽しみにもなっている。ご利用者の混乱に対しても、愛情いっぱいを受容されており、“心に寄り添うケア”が日々行われている。	今後も、お1人お1人のお力が発揮できる機会を増やしていく予定であり、“作品作り”等も行っていきたいと考えられている。ご利用者が自主的に取り組めるような環境を整え、それぞれの発想力等を活かした場面作りの検討が予定されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入し会費を納めている。市の広報や回覧板も回り、地域の活動や空き缶拾い、清掃等にも参加している。	町内会に加入し会合にも出席している。空き缶清掃や道路の草むしりなどの町内活動や、アイアンマン大会や福江祭り等、地域のイベントにも参加している。3年前から続いている裏山の栗拾いの後に、小学生の方が肩を揉んで下さり、ご利用者も喜ばれている。保育園児のお遊戯も楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、はあとケア(認知症を理解していただく機関誌)を近隣住民に配布。また、レクリエーション(ミニレク)への招待もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業実績並びに事業計画の報告を行い、年間の事業実績及び事業計画も盛り込んでいる。また、運営推進員の関心のある内容を盛り込むことで、参加しやすいように努めている。	同法人の3つのホームと合同で開催しており、地域情報も頂いている。消防署や警察署の方もゲストで参加頂き、良き勉強の場になっている。参加者の方が関心のある内容(救急救命)も行い、研究発表会の内容もお伝えしている。敬老会等、年に2回は行事の前に会議が行われ、行事にも参加頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席を要請し、事業所の実情並びにケアサービスの取組を伝え、意見をいただいている。	日々の運営に関する事で不明なことを市の担当の方に相談すると、親身に対応下さっている。市の職員の方とも顔見知りになっており、相談しやすい関係が作られている。運営推進会議の後の行事にも残って下さり、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、代表者及び全ての職員が禁止の対象となる具体的な行為の理解と研修を重ね身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の施錠に関しては、夜間を除き日中は開放し、行動の制限をしないケアを行っている。	身体拘束は行っていない。スタッフ会議や法人全体の勉強会の中で、身体拘束についての意識統一、情報の共有を図っている。外出の希望が強い方には、職員がさりげなく同行し、お気持ちが落ち着かれるまで一緒に歩くようにしている。日々、身体拘束をしないという意識を持って話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての研修会を開催し、虐待行為が見過ごされることがないよう注意を払い、その防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行い、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはできる限り本人・家族の意見を尊重しながら、専門用語等を控え、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等において家族等の意見を取り入れるよう努め、法人としても第三者委員を設置しており、利用者やご家族の意見を運営に反映させる体制を取っている。	面会時等に、ご家族からの要望を伺うようにしているが、ご家族からは、「利用者や家族に対して、”こうして下さい、このように協力して下さい”と言う要望も出してほしい」との言葉を頂いた。ご利用者も喜ばれるため、面会を増やして頂く事や、行事への参加などをお願いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任者会議や職員会議、カンファレンス等にも代表者が参加し、職員の意見を聞いている。置き去りにすることなく業務へ反映している。	職員から仕事の愚痴が出ることもなく、何でも相談できる関係が作られており、チームワークも強くなっている。毎月のスタッフ会議や主任者会議が行われており、施設長が直接、職員の意見や要望を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、資格手当、有給休暇などの労働条件も厚遇されており、体調不良時や忌引き等の対応にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH内、法人内と積極的に研修を行い、質の向上に努めている。各種研修会の参加なども積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し交流を深め、お互いに研鑽しながら業務に生かしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を知り理解することから始め職員も理解してもらえるよう努めている。おのずと必要なこと、要望・不安が見えてくる。それが支援につながり、コミュニケーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子・状態を細かく報告し家族からの意見要望等を聞き入れる。まず、家族が職員に話しやすい関係づくり、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者は「ここはどこ」と不安でいっぱいである。まず、ここは安全で安心できる所だと体と心で伝える。具体的な支援は家族の話、サマリー、本人の状態を見て必要な部分から始める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」に視点を置いた支援を積み重ねることで、利用者・職員間の信頼関係も深まり、利用者の意欲や生き甲斐に繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHでの支援は職員のみがするのではなく、家族とともに共同で支援していくという考え方を説明し支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人は家族との関わりが多く、家族にも協力を得ている。墓参りや知人宅への訪問など実現できるよう支援している。	ご利用者の息子さんが“アイアンマラソンに出られる”と言う事で皆さんで応援された。自宅に行ったり、お墓参りにも行かれており、五島の綺麗な海を眺めながらドライブをすることも多い。ご家族が、毎朝の食事介助に協力して下さる方もおられ、近所の方も遊びに来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにお世話をしたり、してもらったりと実に関係が良好である。お互いが相手を尊重するという考えで生活している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、行事などへお誘いし交流関係を継続している。入院等のケースは見舞いや訪問を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらゆる場面で「自己決定」ができるように支援している。そのためにもわかりやすく、ゆっくりと、傾聴の態度で接し、表情や心の観察に努めている。	入浴やレクリエーションの時など、日常の会話の中で意向の把握に努めている。“馴染みの整骨院に行きたい”ということで、3ヶ月間、職員が同行し、願いを叶えることができた。意思疎通が難しい方にも、職員が声をかけを続ける中で、「ありがとう」「ごめんね」などのお返事が頂けており、日々の声をかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴の把握に努め(本人・家族からの聞き取り)これまで継続してきたこと・趣味活動など出来る限り続けていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれに自分の時間・ペースを大切にしている。食事・入浴・排泄など生活のリズムを崩さないように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスとモニタリングを全職員で行い介護計画を作成している。状態の変化や家族の希望などはその都度対応している。	自然との共存と言う視点で、“畑での収穫を楽しむ”“買い物”“外出”等も盛り込まれており、“洗濯物たたみ”や“縫い物”、“鶴を折る”などの役割や楽しみも明記されている。問いかけの形で声かけし、ご利用者の意思を確認しており、医師や法人内のOT等の意見も頂き、全職員で話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌によりバイタル、食事量、入浴の有無、排便、必要な人は排尿、水分量、体重を記録し介護に生かしている。介護記録には、病院受診、身体状況の変化やその日の状態を詳細に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態を的確に把握し、「今」必要なサービスを暫定的にケアの中に取り入れるなど柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の回覧板や広報を活用し、地域行事やイベントに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を受け入れ、かかりつけ医を決定している。また症状に応じ適切な医療が受けられるように病院との連携を図っている。	主にケアマネが通院介助を行い、受診結果の共有もご家族とできており、医師から新たな指示があった時等は速やかに報告している。医師の診療情報提供書を活用してスムーズな連携も図られている。主治医の方が、ホームに遊びに来て下さる方もおられ、ご利用者も喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は専従してはいないが、隣接する老健の医師・看護師の協力を得ている。職員で判断できない場合は指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては介護サマリーを提出し、治療はもちろんのこと生活全般のフォローも行っている。入院期間中は居室を2週間確保しており、安心して治療の受けられる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、本人・家族と話し合い、法人全体でできることを説明しながら、かかりつけ医等との協力を得ながら対応している。	食事ができる状況であれば、ご家族との話し合いも行き、可能な限り、ホームでのケアが行われている。開設以来、看取りケアの経験はないが、食事が取れない方等は点滴通院も行われ、医師の指示も頂きながら、入院の手配も行われている。ホームでの暮らしをできるだけ長く継続して頂けるよう、体操や歩行訓練を取り入れ、健康の維持に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて、緊急時の対応マニュアルを作成し、連絡体制及びマニュアルに基づいて対応できるように日頃から実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害等の災害における避難訓練を実施し、近隣住民の協力体制も整備されている。	23年11月、隣接する老健施設と共に、消防署や中村防災の協力を頂きながら、避難・消火の総合訓練が行われた。年に2回、中村防災の方と一緒に自主避難訓練も行われており、水、食料(カップ麺・カンパン)などを備蓄している。母体法人からの応援も可能となっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員である前に人として社会人としての義務であり、そのことを念頭においてケアにあたっている。	穏やかで優しい職員が多い。接遇について、スタッフ会議等でお互いに確認し、多くの人生経験を持つご利用者に対して、尊厳の念を持ってケアにあたるようにしている。個人情報の取り扱いについても法人全体のルールがあり、プライバシーの確保の徹底に努めている。ご利用者のテンポに合わせた対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも利用者本人による自己決定を原則とし、決定に戸惑い等が見られる場合には、本人の心を傷つけないよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれに自分のペースというものが、職員側の都合を優先することなく、本人のペースを維持するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくつになっても「身だしなみは出来る限り自分で」という方針で支援している。そのことが生活のリズムを整え自分らしさを作ると考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事することで食事を楽しむことができ、共に生活しているという実感を味わうことができる。	ホームの畑からご利用者が大根等を引き抜き、新鮮なまま調理されており、料理の下ごしらえや配下膳、食器拭きなども手伝って頂いている。外にテーブルを出し、山を眺めながらのハイキングも楽しんでいる。ご家族が、ご本人が食べられる物(ゼリー等)を持参下さる方もおられる。	ご利用者全員、食事中にリラックスして頂き、楽しい団欒の時間となるようにしていきたいと考えられている。今後も引き続き、職員全員でアイデアや意見を出し合い、取り組みを続けていく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取量に注意し、特に水分については、脱水予防の観点から状態を考慮しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後は口腔ケアを実施している。口腔ケアの徹底が、嚥下状態の維持につながり誤嚥の防止にも影響している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者本人の力や排泄パターンを理解し根気よく説明し自立に向けた支援を行っている。	個別のトイレ誘導を行う中で、リハビリパンツの方が布パンツ(+パッド)に変更できた方もおられる。ご利用者のプライバシーに配慮しながら、失敗があっても不安にならないようにケアし、ご本人の自尊心を傷つけないようにしている。さつま芋等の繊維質を増やし、腹部のマッサージを行う等、自然排便へのケアも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物については利用者の好きな食べ物である芋を活用したり、便秘の原因である水分や運動についても工夫し、個別の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間に出来る限り入浴が出来るように支援している。	6時間の保温が可能であり、希望があれば毎日でも入浴できる。入浴を拒まれる方には、表情を見ながらの声かけの工夫もしており、タイミングを見ながら声かけをしている。冬場には入浴剤も使用しており、入浴時は会話も増え、“いい湯だね”を歌われるなど、楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズムに合わせて安心して眠れるよう配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重大さを理解して事故のなよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等を把握した上で一人ひとりの役割を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者の気分転換にもなることから、出来る限り本人の要望にも応えている。また、家族の協力を得ながら支援している。	周辺の散歩や畑、近所への買い物などに出かけたり、車椅子を押しながら近くのコスモス見学にも出かけている。車で30～50分ほどのドライブも楽しまれており、魚ヶ崎公園等にも出かけている。入居する前に住んでいた自宅等への個別の外出支援も行われている。	“自然との共存”と言うことの成果も出てきている。外に出るだけで元気が出るため、今後も、天気の良い時の外出を更に増やしていく予定にしている。ホームの畑での活動を増やしてみたり、近くの散歩やお花見等をもっと取り入れていきたいと考えられている。

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる方はその能力に応じて管理している。例え少しでもよいかから自分でお金を持ちたいという気持ちを大切に支援している。</p>	
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族へ手紙や葉書を出したり、電話するなどの支援を行っている。</p>	
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>グループホームの畑を利用して野菜づくりを一緒にいき、季節の変化を感じられるよう心掛けている。</p>	<p>共有空間は光が差し込み、十分な広さがあり、自然の風を取り入れ、日々快適に過ごして頂いている。テーブルやソファがゆったりと置かれ、思い思いの場所で過ごされている。廊下には、小学生がプレゼントして下さったカレンダーが貼られており、季節を感じることもでき、良き会話のきっかけにもなっている。常に掃除が行き届き、清潔な空間が作られている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室に掃き出しの窓がついており、四季折々の風景が楽しめる。全員座れるソファもあれば1~2人用のイスもあり一人ひとりの居場所が確保できる。</p>	
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者の好みにレイアウトし、使い慣れた物や好みのものを飾っている。</p>	<p>鏡や櫛、コップ、湯飲みなど、自宅におられる時に使い慣れた品物を持参頂いており、日常の生活の中で使われている。人形、バック、帽子などを飾り、ご自分の部屋という雰囲気が作られている。馴染みの物が少ない方には、ご家族との写真を飾るなど、心地良いお部屋となるような配慮が行われている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物は利用者のできること、わかることを活かした構造となっており、安全かつ快適に生活できるようになっている。</p>	

事業所名：グループホーム福寿園

作成日：平成 23 年 12 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-1	日常生活の中にメリハリを持たせる	自主的に取り組める作品づくり	出来ることを分担して行き、一つの作品を作る	12 ヶ月
2	2-1	食事をおいしく頂くための工夫をする	食事の時にリラックスできる環境を整える	クラシックや入居者の好きな音楽により、リラックスできる環境を整え、美味しく食事が行えるように取り組む	12 ヶ月
3	3-1	外出機会を多く取り入れる	日光浴や散歩などにより外出の機会を増やす	自然や花などとの触れ合いを通して外出する機会を増やす	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月